



福岡大学 学長 衛藤卓也
まとも / 清水由佳

精神や心を磨く 「生活知」も 伝えていきたい

【学長プロフィール】1945年生まれ。大分大学経済学部卒業、神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了。74年4月、福岡大学商学部専任講師となり、83年に教授に。商学部長、大学院商学研究科長、エクステンションセンター長などを経て07年12月より現職。
【大学プロフィール】1934年、福岡高等商業学校として創立。経済専門学校を経て、49年福岡商科大学に。56年福岡大学と改称。現在、9学部31学科2インスティテュート、大学院10研究科33専攻のほか、2つの大学病院、附属高校2校・附属中学1校を擁する。

現在、本学では「地域マゲネット・ユニバーシティ構想」を掲げて、様々な取り組みを行っています。これは、大学を地域における知のプラットフォームとして機能させていくというものです。具体的には、地域に密着した産学官協同の研究や、地域の人々の役に立つ生涯教育・社会貢献などを実施しています。地域の人々に愛され、信頼される人材を育成する大学として、さらなる地域密着型大学化を推し進めてゆきたい。グローバルな視野をもつてローカルに行動する「グローバル大学」であると同時に、ローカルの視野、地域発想でローカルに行動することも大切にしたいのです。

一方、グローバルという点では、海外協定校を増やし、留学生の受け入れを増やすと同時に、日本の学生を海外に送り出す支援策なども進め、広い視野を育んでほしいと考えています。今年4月には、中国・ハルビンにオフィスを設けましたが、今後さらに、中国や韓国などに複数のオフィスを設け、単に情報提供だけでなく、事前の語学教育なども行うことを構想しています。

創立75周年という長い歴史のなかで、本学は「教育」「研究」「医療」という3つの大きな柱を中心に役割を果たしてきた

ましたが、やはり核となるのは「教育」です。私自身、長い教員生活のなかでゼミなどを通じて、明るく元気で気持ちのよい学生たちとの数多くの楽しい思い出があります。そういう福岡大生らしい学生を育むことが重要であると痛感しています。

そのような学生をどうしたらこれからも輩出してゆけることができるのか。大学の教育では、専門教育と教養教育によつて知識を得て、論理的な分析力や思考力、大局的なものの見方、コミュニケーション力、的確な判断力などを培いますが、それだけでは不十分であると考えています。「生活知」ともいえる、倫理や道徳、礼節、慣習などの「日常生活を営むうえでの知」を伝え、精神や心を磨くことも非常に重要だと思っております。これらを一カリキュラムにいかに関わり込むかが、今後の大きな課題です。

さらに、本学の卒業生は22万6000人を超え、あらゆるジャンルで活躍しています。先日もミャンマーの山奥に行つた人が、留学していた本学の卒業生に出会つて驚いたと話していました。そんな素晴らしい「人」という財産を、うまくつなげていける新しい仕組みも作りたいと思っております。